

コメント

1 インフルエンザ

定点当たり9.25人の報告がありました。減少傾向ですが、例年同時期と比較して多い状況が続いています。手洗い、咳エチケット、適度な湿度の保持、換気などの感染予防対策を徹底しましょう。

2 RSウイルス感染症

定点当たり1.17人の報告があり、増加しています。生後6カ月までの乳児が初感染した場合は重症化しやすいため、注意が必要です。おもちゃや手すりなど手の触れる部分の消毒、手洗いや咳エチケットの励行など、感染予防対策を心がけましょう。

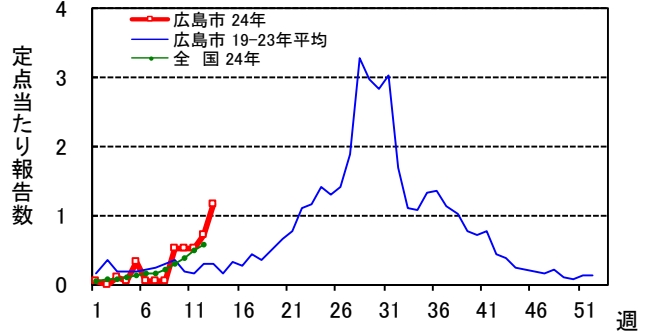
3 咽頭結膜熱

定点当たり0.87人の報告があり、前週と比べて大きく増加しました。手洗いの励行、タオルの共用は避けるなど、感染予防を心がけましょう。

4 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり1.86人の報告があり、減少傾向が続いています。引き続き、基本的な感染予防対策に取り組みましょう。

RSウイルス感染症の流行状況



定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
インフル	インフルエンザ	333	9.25	2.46	◇	小児科	ヘルパンギーナ	1	0.04	0.02	◇
	新型コロナ(COVID-19)	67	1.86	◇	◇		流行性耳下腺炎	-	-	0.05	◇
小児科	RSウイルス感染症	27	1.17	0.28	▲	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.03	◇
	咽頭結膜熱	20	0.87	0.18	▲		流行性角結膜炎	5	0.63	0.48	◇
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	83	3.61	1.07	◇	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	◇
	感染性胃腸炎	136	5.91	3.54	◇		無菌性髄膜炎	-	-	-	◇
	水痘	2	0.09	0.23	◇		マイコプラズマ肺炎	-	-	0.06	◇
	手足口病	11	0.48	0.08	◇		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	◇
	伝染性紅斑	-	-	0.10	◇		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.14	◇
	突発性発しん	9	0.39	0.28	◇						

急増減	▲	▲	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	▲	▲	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	▲	▲	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	◻	◻	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	19	30歳代・市外・推定感染地域: 国外、40歳代、70歳代
4	A型肝炎	1	1	70歳代・市外・推定感染地域: 国外
5	梅毒	3	37	20歳代・3人
5	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	3	90歳代
5	百日咳	1	1	40歳代

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	週	インフルエンザ	新型コロナウイルス(COVID-19)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎			
			592	121	12	22	61	207	1	11	-	3	1	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	
報告数	広島市	第9週	678	122	12	19	81	174	1	11	-	5	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	
		第10週	602	106	12	16	68	198	-	9	-	6	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	1	-	
		第11週	420	83	16	9	74	113	3	3	-	7	1	-	-	6	-	-	-	1	-	-	-	-	
		第12週	333	67	27	20	83	136	2	11	-	9	1	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	
		第13週	16.44	3.36	0.52	0.96	2.65	9.00	0.04	0.48	-	0.13	0.04	-	-	1.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-
定点当たり	広島市	第9週	18.83	3.39	0.52	0.83	3.52	7.57	0.04	0.48	-	0.22	-	-	1.13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		第10週	16.72	2.94	0.52	0.70	2.96	8.61	-	0.39	-	0.26	-	0.04	0.38	-	-	-	-	-	-	-	0.14	-	
		第11週	11.67	2.31	0.70	0.39	3.22	4.91	0.13	0.13	-	0.30	0.04	-	-	0.75	-	-	-	0.14	-	-	-	-	
		第12週	9.25	1.86	1.17	0.87	3.61	5.91	0.09	0.48	-	0.39	0.04	-	-	0.63	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		第13週	17.27	6.15	0.48	0.83	4.48	5.33	0.14	0.21	0.02	0.22	0.02	0.03	0.01	0.38	0.03	0.03	0.10	-	-	-	0.01	-	
全国	第11週	14.08	5.21	0.58	0.70	3.67	4.28	0.13	0.17	0.02	0.21	0.02	0.03	0.02	0.41	0.02	0.03	0.08	0.01	0.01	0.02	-	-		
	第12週																								

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	嘔吐 下痢	0	2024/02/19	糞便	ノロウイルスGⅡ
流行性角結膜炎	結膜充血 眼脂	37	2024/02/19	結膜擦過物	アデノウイルス56型
流行性角結膜炎	結膜充血 眼脂 掻痒感	28	2024/02/22	結膜擦過物	アデノウイルス56型
その他の呼吸器疾患	発熱(39.5℃) 鼻炎	0	2024/01/28	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(39.0℃) 咽頭炎	3	2024/02/04	咽頭拭い液	ヒトコロナウイルスNL63
その他の疾患	発熱(40.0℃) 嘔吐 下痢 腹痛 ショック症状 敗血症 血圧低下 循環不全	4	2024/02/21	咽頭拭い液	ライノウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】広島市における梅毒の発生動向について

今年の累計報告数は37件(男性20件、女性17件)となりました。昨年同時期60件(男性42件、女性18件)と比較して男性は減少していますが、女性はほぼ横ばいです。また、男性は20歳代から40歳代の幅広い年代に多く、女性は20歳代が多くなっています。

梅毒は、主に性的接触により、口や性器などの粘膜や皮膚から感染します。早期の治療で完治しますが、治療をしないまま放置すると、心臓や血管、脳などの臓器に病変が生じ、時には死に至ることもあります。

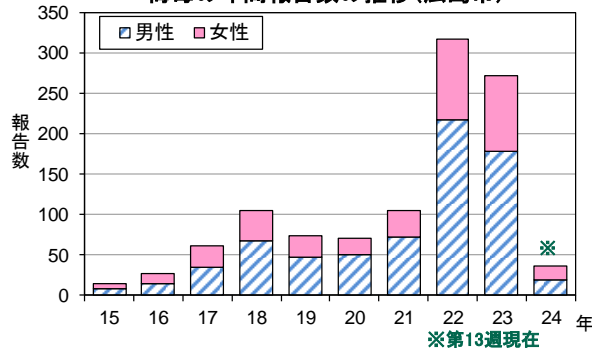
また、妊娠している人が感染すると、死産や早産になったり、生まれてくる子どもの神経や骨などに異常をきたす先天梅毒になることがありますので、感染予防と早期発見・早期治療が大切です。

保健センターの無料・匿名の梅毒検査

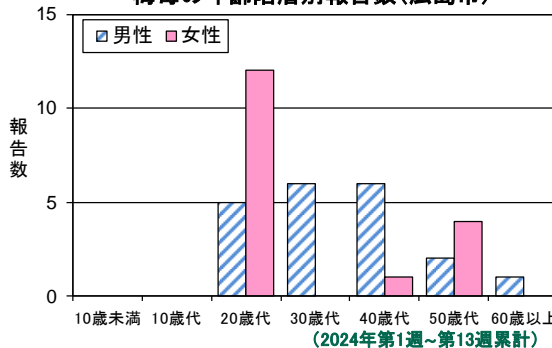
広島市の各区保健センターでは、無料・匿名のHIV検査と併せて梅毒検査を実施しています。詳しくはホームページをご覧ください。
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/72/2986.html>



梅毒の年間報告数の推移(広島市)



梅毒の年齢階層別報告数(広島市)



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>



【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
 TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp